

ラ フォレ セ ラ ヴィ ー森こそ命ー



La Forêt, C'est la Vie !

このたび、能登半島地震によって被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。



フルー村で初めて行なわれた植林。(2016 年 7 月)

なぜ木を植えるのか？

日本の皆さん、こんにちは。私はフルー村出身のジュリアン サウドゴといいます。今、私は避難民としてコングシ市内にあるキャンプに居住しています。私は代々の先祖が暮らし、自分が生まれ育った村にとっても愛着がありました。ですから、フルー村にいつまでも家族や友人たちが住み続けられるよう、木を植えることにしました。乱伐や干ばつ、そして戦乱は必ず環境を壊してしまいます。そして、その後に来るのは土地の荒廃と収穫の減少、飢えと疫病の蔓延です。私たちは身を持ってそれを体験しているのです。

2016 年 7 月、私は初めて木を植えたフルー村民になりました。以来、私は仲間たちと共に木を植えて来ましたが、降雨が不順だった年も、不作だった年も、コロナ禍に見舞われた年も、「こんな時こそ木を植え続けなければいけない」と考えたからです。苗木は徐々に成長し、植栽地は数年後には森となって多くのものをもたらし、皆を喜ばせました。しかしそれも昨年、避難民として村を離れたことによって途切れてしまいました。

避難民としてキャンプで寝起きしている間も、私は村を忘れたことはありませんでした。そして昨年 11 月、治安状態がやや回復したのを機に、早朝にキャンプを出て村に行き、日中に幼木への水やりを行ない、夕方にキャンプに戻るという生活を始めました。当時はまだ武装集団に襲われる可能性も残っていましたから、周囲からは「なぜ今？」と止められました。しかし、私にとっては村の環境が壊れてしまう方が怖かったのです。その方がより多くの命を失ってしまうからです。

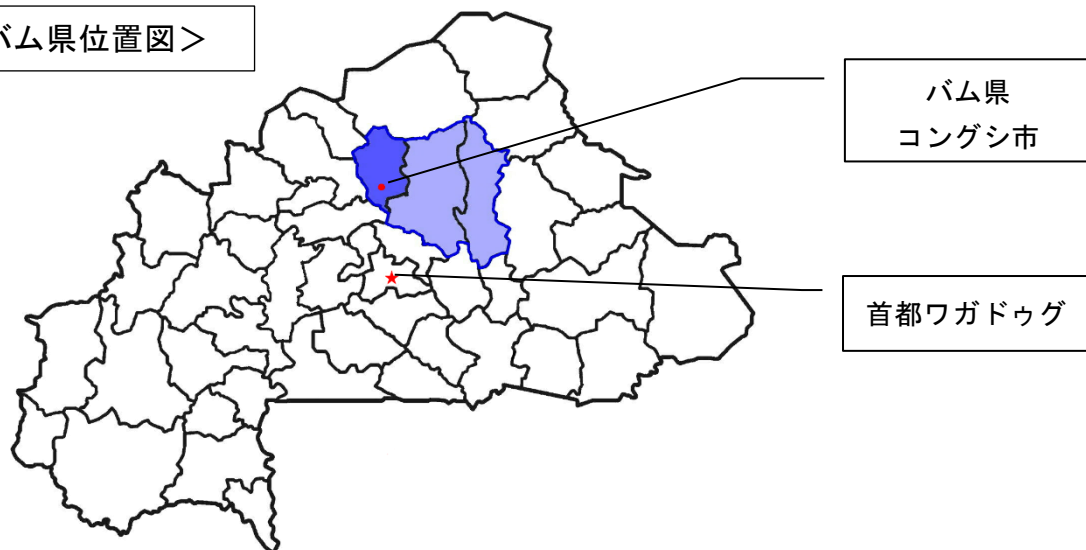
いつも私たちを支援してくれている「緑のサヘル」や AJPEE（現地協力団体）の皆さんには、本当に感謝しています。でも、最終的に自分たちの生活を守り、より良いものにするのは自分たち自身だと私は思うのです。今年に入り、いくつかの村に住民が帰って行きました。残念ながらフルーに帰村するという願いはまだ叶っていませんが、私はその日が来るのを楽しみに待っています。

フルー村 ジュリアン サウドゴ

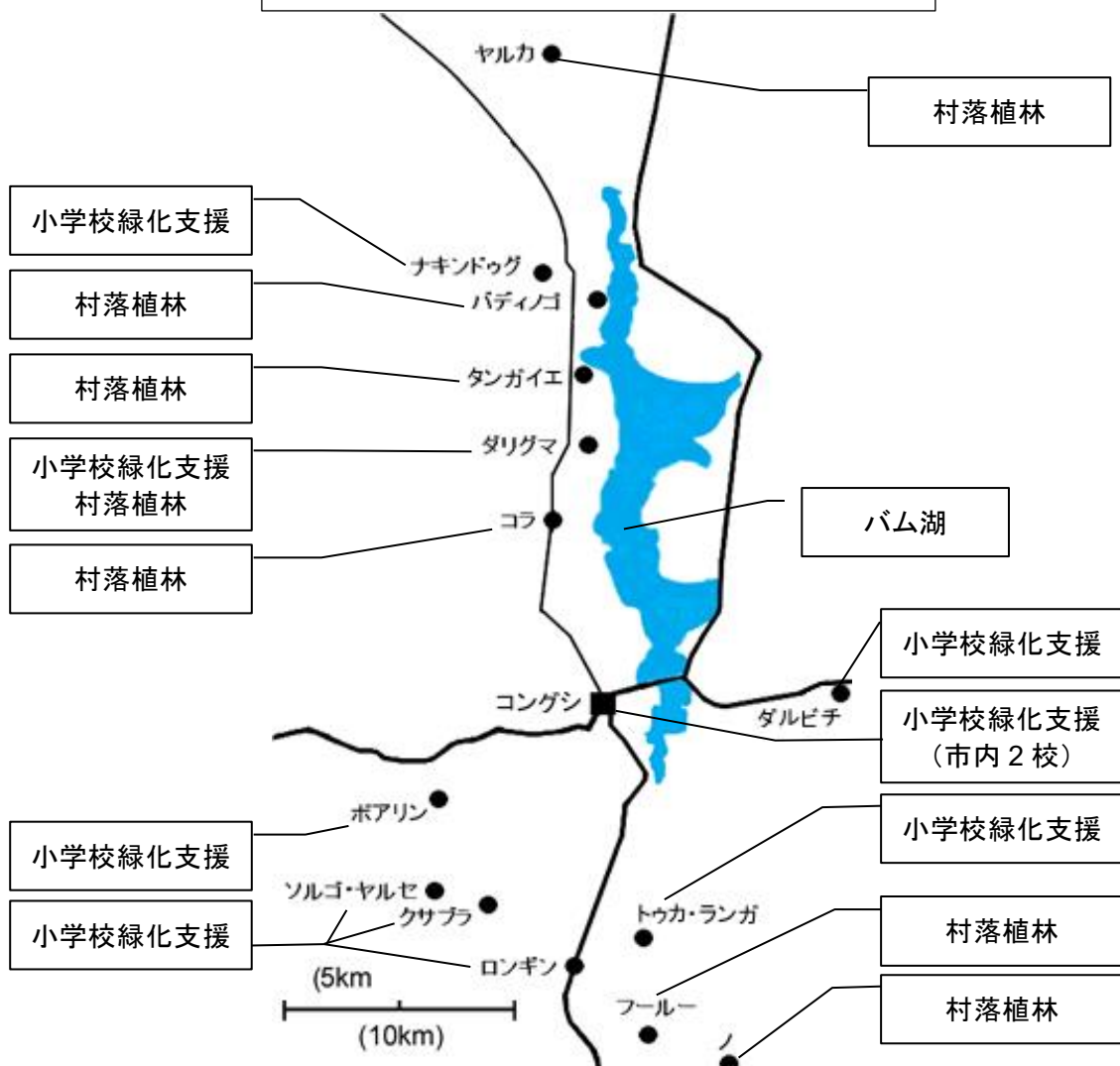
ブルキナファソの活動地域図

(2022 年時点)

<バム県位置図>



<バム県コングシ地域活動実施村位置図>



ブルキナファソから 1



現地では不安定な状況が続いていますが、協力団体である AJPEE（環境畜産保全青年協会）から近況報告が届いているので、以下に掲載いたします。

現地からの報告

はじめに

まず、このたびの震災で犠牲になられた方々のご冥福をお祈りすると共に、ご家族の皆様に心よりお悔やみ申し上げます。また、お怪我をされた皆様の一日も早いご回復を願っております。

コングシ地域の現況

こちらは今、乾季のピーク（4月）に向けて 40℃前後まで気温が上がっています。例年この時期にはサハラ砂漠からの風に乗って大量の砂が飛来するのですが、今年はそれほどありません。地域の北部では一時デング熱が蔓延しましたが、保険省及び関連機関の働きによって現在は鎮静化しています。何より深刻なのは、食糧の不足です。治安悪化のために 2～3 年前から十分な耕作が出来なかったことに加え、多くの住民が貯蔵穀物や家畜を失いました。このため、避難民だけでなく地域全体が食糧不足に陥っています。

治安の状況

国軍と民間志願兵の活躍によって、治安は徐々に回復しつつあります。現在、一部の村々への住民帰村が始まっており、クルペレ、バディノゴ、タンギエマ、ダリグマ、コラ、ニエネガ、タンガイエの各村住民計 16,051 人に関しては 1 月 31 日までに帰村が完了しています。帰村した住民たちには軍隊による警備がつけられており、まだ日常とはほど遠い生活を送らざるを得ない状況です。当然、食糧を生産できる段階には達していません。



尚、ボアリン、ソルゴ・ヤルセ、ロンギン各村は帰村進行中、ヤルカ、ナキンドゥグ、ダルビチ、トゥカ・ランガ、フールー、ノの各村に関しては、まだ帰村が進んでいません。

ボアリン村では住民の帰村が始まりましたが、まだ日中でも人影は疎らな状態です。

避難民の生活

現在登録されている避難民数は 24,186 人となっていますが、実はこの数字は担当機関が 2023 年 3 月 31 日時点に発表したものであり、その後の増加には対応が追いつかなかったため、実際の人数は把握出来ていません。いずれにしても食料と居住施設が大幅に不足している状況に変わりはなく、乾季を迎えて体力の消耗や栄養不足、疾病の蔓延等、より深刻な事態の発生を懸念しています。何よりも食料の調達が急務と考えています。



2024 年の活動について

現地の治安は徐々に回復していますが、武装勢力が壊滅してはいないことから、一時的な小康状態と捉えるのが妥当かも知れません。殊に 3 月 10 日前後から始まるラマダン（イスラム教の断食月）の期間中は、武装勢力の動きが活発になる傾向があるため要注意と言えます。また地域全体が疲弊していることから、現地協力団体と検討した結果、2024 年度も「避難民支援」を中心に、住民のキャパシティに合わせた比較的小規模な活動の可能性を考えて行くことになりました。以下がその詳細です。

● 避難民支援 ●

地域全体が食料不足の状態にあります。現在最も懸念されているのが帰村した避難民の食料です。まだ自村で食糧を生産出来る段階にはなく、配給も距離や労力の関係で市内のキャンプに比べて後回しになってしまいがちです。今年度はまず、帰村した避難民に対する米（4,500 円／1 袋：50kg）と食用油（6,600 円／1 箱：5ℓ4 本）の配給から始めたいと考えています。支援して下さる団体や助成金を探していますが中々難しく、皆様からのご寄付が活動の中心になる見込みです。



現在、帰村が進んでいるロンギン村でも食料の在庫は乏しく、配給が頼りです。

● 生活林造成（村落植林） ●

村々で植林を行ない、木陰作りや防風・防砂等によって生活環境を改善すると共に、建材や薪材を生産し、その販売によって現金収入の向上を図る活動です。今年度は安全性の問題からコングシ市近辺に位置し、住民の帰村が進んでいることが条件となります。また水源や資機材の関係で、新規ではなく既に植栽地が設置されている村を対象とします。助成金と皆様からの指定寄付によって、支援村を選定する予定です。

● 小学校緑化支援 ●



登校が再開されたロンギン小学校。

校庭への植林によって学習環境を改善すると共に、植林体験を通じて子供たちの環境意識を育む活動です。今年度の対象校は村落植林と同様、安全性の確保と巡回指導の難しさから、コングシ市と周辺村にあること、児童の登校が再開されていること、新規ではなく既に植栽地の設置と用具の配布が行なわれていることが条件となります。助成金と皆様からの指定寄付によって、支援校を選定する予定です。

国内活動



今期は「2024 年カレンダー」と「ニュースレター No.96」の発送で慌ただしい毎日が続きました。また、今年も岩手県内の小・中学校において講演を実施し、多くの方々にお話を聞いていただくことが出来ました。

< 国内の主な活動一覧 >

2023 年				
11 月	6 日(月)	一関市立 東山中学校	(2 年生 45 名)	講演
	7 日(火)	盛岡市立 仙北中学校	(2 年生 230 名) (保護者 20 名)	講演
	8 日(水)	滝沢市立 滝沢東小学校	(5 年生 30 名)	講演
	10 日(金)	盛岡市立 見前南中学校	(2 年生 132 名)	講演
	12 日(日)	盛岡支部 報告会	(一般・教員 8 名)	報告・質疑
	14 日(火)	盛岡市立 下橋中学校		講演
		「エコシンポジウム」	(2・3 年生 145 名)	講評
	17 日(金)	盛岡市立 黒石野中学校	(2 年生 139 名)	講演
12 月	6 日(水)	「ニュースレター No.96」	発送開始	—
2024 年				
1 月	4 日(木)	仕事始め。カレンダーの発送等		—

2023年度の岩手講演

当団体が毎年行なっている岩手講演は、事務局長の菅川（同県出身）が 1996 年に教師の皆さんの依頼を受けて始められ、これまでに 300 回以上が実施されています。

今年度は 5 中学校と 1 小学校で講演を行ないましたが、近年になくインフルエンザの影響を受けることとなりました。下橋中学校の「エコシンポジウム」では、当日 1 学年が学年閉鎖となってしまいましたが、急遽校内オンラインを利用した開催に切り替えられ、予定通り実施されました。



「盛岡支部報告会」では、現地の状況と見通しに関する質問が多く出ました。

こうした各校関係者の皆さんの懸命な努力によって、講演は中止になることなく実施され、生徒と教師、保護者等、約 750 名の方々が、現地の状況や「緑のサヘル」の活動について学びました。また、期間中には「緑のサヘル盛岡支部」が主催する報告会も開催され、2022 年度の活動報告と 2023 年度以降の可能性について検討が行なわれました。

「緑のサヘル」は、皆様からの講演依頼をお待ちしています。

講演データの貸出も承っていますので、ぜひお気軽に事務局までお問合せ下さい。



前頁でお伝えした岩手講演の後、各校の皆さんから感想文をいただきました。そこには現地の人々や生活への感想、現在と未来の自分への思いが語られており、改めてこの取り組みの大切さを実感しました。抜粋になりますが、以下にその一部をご紹介します。

「緑のサヘル」の講演を聴いて

- 活動をしている時の現地の人たちがとても笑顔になっていて、優しさは国や宗教、民族を越えて与える、与えられるものなのだと気付くことができました。今回学んだことをこれからの生活でも意識し、今のこの生活に感謝して過ごしていきたいと思います。
- 今回のお話で、今自分が生きていることへのありがたみを感じることができました。また、人として助け合いを大切にしたい人間になりたいと思いました。たくさんのことを教えていただき、ありがとうございました。
- 日本に生まれたことがどれだけ幸せなことか分かりました。自分たちではまだ何もすることができないけれど、今も辛い生活を送っている人が何人もいることを心に留めて、これから生活していきたいと思いました。
- 今回の講演を聞いて、自分の生活を振り返りました。僕は当然のように学校に行き、そして帰ってきたらテレビを見たり、ゲームをしたりできます。でもそれは、本当は当たり前のことではありません。世界には1日を生きるのに精いっぱいの人もあります。そのことを頭に入れ、安全に生活できることに感謝して、これからは生活して行きたいです。
- 現在も続いている「砂漠化」。また、難民が戦争や内戦、紛争などいろいろな理由で増えています。この講演会后、私は「医療従事者になって、困っている人を助けたい」と思いました。「アフリカなどで病院や薬がなくて困っている人を助けたい」、「救える命を助けたい」と思いました。
- 他人がどう考え、何をするのかではなく、自分自身が考え、行動することが大切であるということが一番印象に残りました。自分にできることはたくさんあるので実践し、世界の人々がみな同じ生活が送れるように支援していきたいです。
- 世界には深刻な問題が多くあるのに、それに気づいていないことが何よりも深刻なことなのだと思います。学んだことを積極的に発信して、少しでも広めていきたいと思いました。
- 自分にできることが少しでもあるなら、そこに行きたいです。外国でも日本でも困っている人がいたら、行って力になりたいです。講演で聞いた「人の優しさは尽きることがない」という言葉を忘れずに生きたいです。

皆さん、思いを込めたご感想、本当にありがとうございました！

ありがとうございました

＊敬称は略させて頂きました。

【 会員の皆さま 】

杉本和／安田喜代美／須藤さい／田邊諄兒／今井奈津子／今野和子
岡崎拓／加藤和雄／國岡裕子／上野幸子／竹内信／東千尋／町慶彦
吉田誠男／宮田春夫／金井晶子／佐賀明子／後藤琢雄／野口鉄雄
浅輪哲司／本所稚佳江／佐々木順平／カトリック煉獄援助修道会

他 匿名をご希望の方 3名

【 ご寄付を頂きました 】

崎村春来／田中ちえ子／井上るみ子／田中順子／紫竹チカ工／佐藤郁子
木嶋美加子／茂原陽／藤村さほり／田邊諄兒／熊谷真奈美／桜井より子
石毛弘／城佳秀／今野和子／宮本秀子／佐藤京子／村上和代／加藤治郎
有里公德／高橋昭／伊藤敬子／浅輪哲司／宮田春夫／矢部弥生／葛原睦子
榎本みつ枝／佐貫眞木子／勝間朋子／莊田知美／佐藤裕美／中村ちとせ
金井晶子／宮川頌啓／山本明子／桜井裕美世／戸澤眞知子／高木眞味子
松本恵子／太田宜子／氏岡治代／畑野めぐみ／佐々木順平／徳永由希子
戎綾子／武藤彰子／浅井徹子／國岡裕子／梶野修平／松岡亜湖／伊藤良三
岩本恵子／高瀬光代／水島多衛子／瀬戸義子／加藤文子／中川昭一
カトリック煉獄援助修道会／岩手プロジェクト／山田陽明堂
個別教育フォレスト 安多秀司／中西クリニック 中西利果子

他 匿名をご希望の方 9名

【 ハガキ・切手・商品券・図書カードなどをいただきました 】

伊藤良三／佐々木順平

上記は 2023 年 11 月 1 日から 2024 年 1 月 31 日までにご支援頂いた方、
また、それ以前にご支援頂き、お名前を掲載できなかった方のご芳名であり、
2 月 1 日以降にご支援下さいました方については、次号の掲載とさせて頂き
ました。

【 協力団体・助成団体 】

アフリカの砂漠で木を植えている日本青年を支援する会／トヨタ自動車(株)
(公財)毎日新聞東京社会事業団／アフリカ料理トライプス／(株)ブギ
ソフトバンクつながる募金／環境メディアフォーラム有限責任事業組合
(特活)環境アリーナ研究機構／(特活)国際協力 NGO センター
LIFULL ソーシャルファンディング／国際ソロプチミスト大阪-中央

【 写真を提供しました 】

北杜市役所 「北杜市環境学習実施の手引き」

「緑のサヘル」からお知らせ

ご支援をお願いします！

● 会員を募集しています！



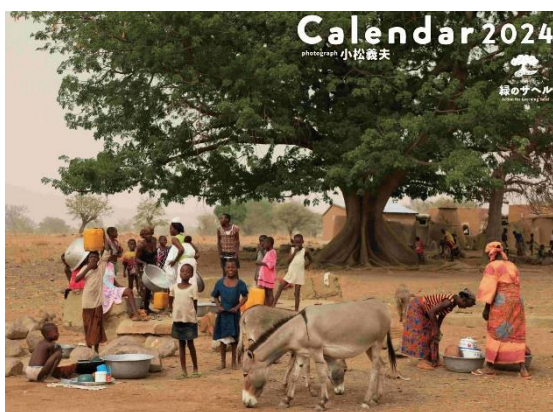
「緑のサヘル」を恒常的に支えて下さいますか？
年会費は、団体賛助会員 50,000 円、個人賛助会員 10,000 円、学生会員 5,000 円です。
会員になって下さった方には会員番号を通知し、当団体のニュースレターと年次報告をお送りします。

● ご寄付を募っています。



「緑のサヘル」は、多くの方々の支えによって活動を続けられています。もちろん、いくらからでもOKです。どうぞ、貯まった小銭や臨時収入のお裾分け等々、「緑のサヘル」にお託し下さい！生徒会や有志による募金も、大事に大事に使わせていただきます。

緑のサヘル カレンダー



西アフリカの自然や風景、人々の暮らしが身近に感じられると大好評の「2024 年 緑のサヘル オリジナル・カレンダー」、若干ですが在庫があります。まだご注文いただけますので、ご希望の方は事務局までご連絡を下さい。

【 もくじ 】

- | | |
|-----------------|-----------|
| 1・・・表紙 | 5・・・国内活動 |
| 2・・・ブルキナファソ活動地図 | 6・・・事務局より |
| 3・・・ブルキナファソから 1 | 7・・・ありがとう |
| 4・・・ブルキナファソから 2 | 8・・・お知らせ |

● 書き損じハガキや未使用切手を集めています。



国内での活動には、ハガキや切手も必要です。未使用の切手は、そのまま使わせていただきます。
書き損じハガキは、1枚5円の手数料で同額のハガキか切手、レターパック等に換えることができます。その結果、現地の活動費を増やすことができます。

< 編集後記 >

世界中が紛争に巻き込まれ、大規模な自然災害に見舞われています。ブルキナファソも未だに予断を許しません。このニュースレターが皆さんのお手元に届く時、果たして状況はどのようなものになっているのでしょうか？
そんな不安の中で聞いたジュリアンさんの「自分たちの生活を守り、より良いものにするのは自分たち自身」という言葉に、救われたような気持ちになっています。（事務局）

La Forêt, C'est la Vie !

Vol.97

編集 緑のサヘル 東京事務局 / 印刷 社会福祉法人東京コロニー

発行所 (特活) 緑のサヘル ホームページ: <http://sahelgreen.org/> E-mail: agsj_tokyo@sahelgreen.org

〒101-0035 東京都千代田区神田紺屋町 16 番地 N A S ビル 3F TEL:03-3252-1040 / FAX:03-3252-1041